

第三章 めざす子どもの姿

1 遊びきる子ども

遊 び き る 子 ど も

本県では、「遊びきる子ども」をめざす子どもの姿として掲げました。

遊びと生活の中で、心も頭も体も一緒に育つのが乳幼児期の特徴です。友達との集団生活を通して、「遊びきる子ども」を育てていくことをめざします。

遊びの楽しさは、子どもが**遊びたい**という意欲から、自ら**遊びだす**ことで始まります。そして、**遊びこむ**ことで、遊びの楽しさやおもしろさが深まったり広がったりしていきます。十分に遊びこむことが**遊びきる**ことにつながり、遊びきることで心地よい満足感や達成感を味わっていくのです。この満足感や達成感といった自己充実感が自信となり、新たな遊びを生み出すエネルギーや次の活動への気持ちの切り替えにつながるのです。

そのため、幼稚園・保育所・認定こども園では、友達とたっぷり遊ぶ時間と場を保障し、心ゆくまで遊びきることができる環境を構成することが必要となります。

また、幼児教育・保育の専門家である保育者が、主体的な遊びを中心とした乳幼児期にふさわしい生活をつくっていくことが重要です。



POINT

「遊びこむ」とは、遊びに集中する中で、その子らしい発想が生かされて遊びが深まったり広がったりしながら継続して展開されている状態のことをいいます。そこには、時間・空間・仲間の三つの間が必要で、^ま我を忘れて「遊びこむ」ほどの楽しさを知ることが「遊びきる」ことにつながります。「遊びきる」とは、友達と一緒に自己発揮をしながら十分に遊びこみ、満足感や達成感を味わうことができている状態であるととらえています。

2 遊びの中の学び

幼児期は、知識を教えられ身につけていく時期ではなく、遊びながら学んでいく時期です。子どもは、夢中になって遊びこむ中で、保育者や友達、地域の人々、自然やさまざまなもの・出来事に出会います。それらとのかかわりを広げたり深めたりしていくことで、新しい世界に気付き、自分自身について振り返るようになっていきます。

子どもは、幼稚園や保育所、認定こども園で、興味や関心に基づいた自発的な活動や具体的な体験を通して多くのことを学びます。子どもの遊びには、成長や発達にとって重要な体験がたくさん含まれています。遊びは幼児期にふさわしい学びなのです。その学びの質を高めるために、**遊びこむ・遊びきる**ことが必要なのです。



「幼稚園ってなあに～学校教育のはじまり～」

遊びの中の学び

◇健康な心と体

体力の向上：園庭などで、おもいっきり走りまわって遊んだりすることで体力がつく。

基本的な生活習慣：食事の前に手を洗うなど、ふだんの生活に必要なことができるようになる。

◇自立心・人とかかわる力

自立心：身のまわりのことを自分でやろうとしたり、自分で考えて行動したりする。

社会性・道徳性：よいことや悪いことの区別、他者への思いやり、きまりをまもろうとする気持ちをもつ。

◇思考力の基礎

思考力の基礎：遊びのなかで、考えたり試したり工夫したりすることで、思考力が伸びる。

数への興味：遊びのなかで物や人をかぞえるなどして数などに興味をもつ。

◇言葉の獲得

話す力：友達や先生とコミュニケーションを楽しみ、しだいに相手にわかるように話す。

聞く力：友達との関係が深まるにつれて相手の話に関心を持ち、相手の話を理解しようとする。

◇表現力

感性：自然などに触れるなかで、感性が豊かになる。

表現：ごっこ遊び、リズム遊び、絵をかくことなどをとおして、感じたことを自由に表現する。

出典「幼稚園ってなあに～学校教育のはじまり～」2009 文部科学省



POINT

遊びは幼児期にふさわしい学び

- ・転がる仕組みを発見する
- ・遊び方を話し合う
- ・遊び方を工夫する
- ・転がす順番を守る
- ・さまざまな斜度、素材で試す
- ・片付けをする

など、遊びにはたくさんの学びがひそんでいるのです

3 育ちと学びの連続性

幼稚園教育要領及び保育所保育指針の「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域と小学校の「国語」や「算数」などは、一見何のつながりもないように見えたり、ある領域と特定の教科が直接的につながっているように見えたりするかもしれません。

しかし、幼児期の教育と小学校教育は、指導法や学び方は違いますがつながっています。幼児期の教育の特性である遊びを通しての総合的な指導が、小学校以降の教育の基盤を作っているのです。**遊びこむ・遊びきる**ことを大切にした指導により、学びの質を高めることが求められます。

幼稚園や保育所での生活や育ちが基礎になって、
小学校での学習や生活につながります。

子どもの育ちと学びの連続性

